

最優秀賞

獨遊熱海梅園

神奈川県 淡雪 木村 孝

ひとり あたみはいえん あそ
独り熱海梅園に遊ぶ

溪水潺潺一曲琴

けいすいせんせん いっきよく きん
溪水潺潺 一曲の琴

花晨清冷歩梅林

かしんせいれい ばいりん ほ
花晨清冷 梅林を歩す

温湯暖氣亦如舊

おんとう だんき またきゆう ごと
温湯の暖氣 亦旧の如し

折杪贈君紅玉簪

びよう お きみ おく こうぎよく しん
杪を折りて君に贈らむ紅玉の簪

優秀賞

千葉県 観水 田沼裕樹

雨中訪友

うちゆうとも たず
雨中友を訪ぬ

殘花帶露雨如煙

さんかつゆ お あめけむり ごと
殘花露を帯びて雨煙の如く

村路野畦行潦連

そんろ やけい こうろうつら
村路野畦 行潦連なる

仰望遠山雲已盡

あお えんさん のぞ くもすで つ
仰いで遠山を望めば雲已に尽く

君家正在斷虹邊

きみ いえ まさ だんこう へん あ
君が家は正に斷虹の辺に在り

優秀賞

佐賀県 東山 吉田雅孝

閑居偶成

かんきよくうせい
閑居偶成

門靜狗眠容膝家

もんしず いぬ ねむ ようしつ いえ
門靜かに 狗は眠る 容膝の家

寬衣獨酌老懷加

ころも くつろ ひと く ろうかいかわ
衣を寬げて 独り酌めば老懷加わる

生來蹇劣無財物

せいらい けんれつ さいぶつ な
生來の蹇劣 財物無きも

唯有時時雪月花

た あ じじ せつげつか
惟だ有り 時時の雪月花

優秀賞

山梨県 栖竹 高山一雄

良宵寄故儔

良宵故儔に寄す

懷君信步月玲瓏

君を懷いて歩に信せば月玲瓏

切切蛩聲菊徑中

切切たる蛩聲 菊徑の中

曾共傾杯賞花處

曾て共に杯を傾け花を賞せし處

清香滿地一微風

清香地に滿ち一微風

優秀賞

栃木県 齋藤昌枝

靜夜想卿

靜夜郷を想う

月照牀邊香自清

月は牀邊を照らし香り自ずから清し

方知籬畔發金英

方に知る 籬畔の金英發くを

夜深忽夢少年日

夜深 忽ち夢みる少年の日

遊興秋郊菊萬莖

遊興の秋郊菊 萬莖

優秀賞

福井県 吉岡正道

月下看梅

月下看梅

早春料峭月明時

早春料峭 月明の時

馥郁清香三兩枝

馥郁清香 三兩枝

占斷風流疎影下

風流を占斷す 疎影の下

悉將佳境入新詩

悉く佳境を將つて新詩に入れん

佳作

神奈川縣 五嶋美代子

草原駿馬

草原の駿馬

霜蹄千里震川原

霜蹄千里 川原を震わす

奮鬣追風群馬奔

鬣を奮い風を追つて群馬奔る

秀骨稜稜肌似玉

秀骨稜稜 肌玉に似たり

天資應是及兒孫

天資應に是れ兒孫に及ぶべし

佳作

長野県 臥龍 北村敏雄

送春

送春

浅紅櫻樹傍塘連

浅紅の桜樹 塘に傍うて連なり

乘興佳人回僦船

興に乗じ佳人僦船を回らす

花後園池遊客少

花後の園池 遊客少に

但看茅店酒旗翻

但だ看る茅店 酒旗の 翻るを

佳作

千葉県 観水 田沼裕樹

機場迎友

機場にて友を迎う

萬里鵬程一夢中

萬里の鵬程 一夢の中

曾看銀翼盡青空

曾て看る 銀翼の青空に尽くるを

送人處是迎人處

人を送るの 処は是れ人を迎うの 処

喜爾鄉音昔日同

喜ぶ爾が郷音の昔日に同じきを

佳作

茨城県 伯韻 會澤剛史

早春未有梅花

早春梅花未だ有らず

牀頭寒意夢魂驚

牀頭寒意 夢魂驚く

疎影映窓知幾更

疎影窓に映じて知んぬ幾更ぞ

欹枕撥簾孤月冷

枕を欹て 簾を撥ぐれば孤月冷やかなり

暗香不到六花清

暗香到らず 六花清し

佳作

佐賀県 桜敢 副島陽子

春日郊行

春日郊行

今歳還逢明媚花

今歳還た逢う 明媚の花

艷然含笑向誰誇

艷然笑みを含み誰に向って誇らん

春愁老識踏青路

春愁老いて識る 踏青の路

遠寺鐘聲落日斜

遠寺の鐘聲 落日斜めなり

佳作

阿倍仲麻呂

神奈川県 久川憲四郎

あべのなかまろ
阿倍仲麻呂

征帆一片別東天

せいはいいつべん とうてん わか
征帆一片 東天に別れ

埋骨落遼遼日邊

ほね うず りようりよう ちくじつ へん
骨を埋む 遼遼 落日の辺

清夜孤懷故山月

せいやひと おも こざん つき
清夜孤り懷う故山の月

遊魂長恨不歸船

ゆうこんとこしえ うら ふき ふね
遊魂 長に恨む 不歸の船

佳作

冶春絶句

栃木県 齋藤昌枝

やしゅんぜつく
冶春絶句

獨歩長堤暗淚流

ひと ちようてい あんるいなが
独り長堤を歩めば暗淚流る

鳥啼芳草弄春柔

とり な ほうそう はる ろう やわ
鳥は啼き芳草は春を弄して柔らかなり

引吾拾翠妣何在

われ ひ すい ひろ はは いす
吾を引き翠を拾いし妣は何くにか在る

幻影依稀花裏浮

げんえい いき かり う
幻影は依稀として花裏に浮かぶ

佳作

春日尋隱君

群馬県 芳泉 小井土幾代

しゅんじついんくん たず
春日隱君を尋ぬ

夜來甘雨洗荒村

やらいかんう こうそん あら
夜來甘雨 荒村を洗い

江上雲流草色暄

こうじようくも なが そうしよくあた
江上雲は流れて 草色暄かなり

新柳搖搖鶯語滑

しんりゆうようよう おうごなめ
新柳搖搖 鶯語滑らかに

春風共叩隱君門

しゅんぷうとも たた いんくん もん
春風共に叩く 隱君の門

佳作

紫陽花

神奈川県 小嶋明紀子

しようか
紫陽花

旬日憑欄細雨中

じゅんじつ らん よ さいう うち
旬日 欄に憑る 細雨の中

方知造化不言功

まさ し ぞうか ふげん こう
方に知る 造化 不言の功

繡毬七變嫩葩色

しゅうきゅう しち へん どんは いろ
繡毬 七たび変ず 嫩葩の色

幽賞深青與淺紅

ゆうしょう しんせい せんこう
幽賞す 深青と淺紅とを

佳作

新年偶成

長野県 花柏 櫻井敬二

新年偶成
しんねんぐうせい

暁風蕭瑟待春來

暁風蕭瑟たり 春の來たるを待つ
ぎょうふうしょうしつ はる き ま

庭院微禽安在哉

庭院の微禽 安在哉
ていいん びきん いずくにかあらんや

柏酒椒盤無賀客

柏酒椒盤 賀客無し
はくしゅしょうばん がくくな

欣欣家室共銜杯

欣欣たり家室 共に杯を銜む
きんきん かしつ とも はい ふく

入選

雪中作

宮城県 鎌田道德

雪中作
せつちゅうさく

臘月淒風淅瀝吹

臘月淒風 淅瀝として吹き
ろうげつせいふう せきれき ふ

六花叩戸沍寒時

六花戸を叩く沍寒の時
りつかと たた ごかん とき

擁爐傾酒曲肱臥

炉を擁し酒を傾け肱を曲げて臥せば
ろ しょう さけ かたむ ひじ ま が

夢裏遭逢阿母姿

夢裏遭逢す 阿母の姿
むりそうほう あぼ すがた

入選

新年作

群馬県 藝舟 小須田敦子

新年作
しんねんさく

蓬蓬瑞氣喚春來

蓬蓬たる瑞氣 春を喚んで來たる
ほうほう ずいき はる よ き

一笑放香瓶裏梅

一笑して香を放つ 瓶裏の梅
いつしょう こう はな へいり うめ

郎願期頤斟柏酒

郎は期頤を願いて柏酒を斟み
ろう きい ねが はくしゅ く

妾挑筆翰綵牋堆

妾は筆翰に挑んで綵牋堆し
しょう ひつかん いど さいせんうずたか

入選

探梅

群馬県 壺桜 三田啓子

探梅
たんばい

與君探訪一枝梅

君と探訪す 一枝の梅
きみ たんぼう いつし うめ

行聽鶯聲曲水隈

行く行く聴く鶯声 曲水の隈
ゆ ゆ き おうせいきよくすい くま

風白東郊春未遍

風は白く東郊 春未だ遍からず
かぜしろ とうこう はるいま あまね

氷肌數點夕陽開

氷肌數点 夕陽に開く
ひようきすうてん ゆうひ ひら

入選

埼玉県 孤朴 平塚純造

秋日望郷

しゅうじつぼうきょう

一片扁舟浮大江

いっぺん へんしゅう たいこう う
一片の扁舟 大江に浮かび

晚秋風伯敲西窗

ばんしゅう ふうはく せいそう たた
晩秋の風伯 西窓を敲く

久栖異境信疎遠

ひさ いきよう す たよりそえん
久しく異境に栖めば信疎遠なり

獨想家郷寒雨降

ひと かきよう おも かんう ふ
独り家郷を想えば 寒雨降る

入選

千葉県 露山 清水義孝

倦雪

ゆき う
雪に倦む

連天豪雪壓蓬廬

れんでん ごうせつ ほうりよ あつ
連天の豪雪 蓬廬を圧す

人捨三餘孜欲除

ひと さんよ す つと のぞ ほつ
人は三余を捨て孜めて除かんと欲す

夫有屋檐妻慄慄

ハロ おくえん あ つま りつりつ
夫は屋檐に有りて妻は慄慄たり

業終喫茗意安舒

ぎようお めい きつ いあんじよ
業終えて茗を喫すれば意安舒たり

入選

千葉県 禎心 濱村明弘

向那智大社

な ちたいしゃ むか
那智大社に向う

山行是苦汗生膚

さんこう こ く あせはだ しょう
山行は是れ苦にして汗膚に生ず

徐向神宮一徑迂

おもむ じんぐう むか いつけいう
徐ろに神宮に向えば一徑迂なり

欲索疎筇上巖磴

そきよう さく がんとう のぼ ほつ
疎筇を索して巖磴を上らんと欲すれば

更苔滑澤滿前途

さら こけ かたたく ぜんと み
更に苔は滑沢として前途に満つ

入選

東京都 太冲 岡田 譲

暮江吟

ぼこうぎん

維舟柳渚上高臺

ふね りゅうしよ つな こうだい のぼ
舟を柳渚に維ぎて高台上れば

煙水蒼茫潮欲回

えんすいそうぼう しおかえ ほつ
煙水蒼茫として潮回らんと欲す

一塔凌雲何處寺

いつとうくも しの いずこ てら
一塔雲を凌ぐは何処の寺ぞ

鐘聲隱隱渡江來

しょうせい いんいん こう わた き
鐘聲隱隱 江を渡りて來たる

入選

東京都 白流 恒松景子

清晨邑里

せいしん ゆうり
清晨の邑里

雨晴縹渺帶紅霞

あめは ひょうびよう
雨晴れて縹渺として紅霞を帶ぶ

粥粥鷄聲三兩家

しゆくしゆく けいせい さんりようか
粥粥と鷄聲 三兩家

信步霑裾田野路

ほ まか すそ うろお でんや みち
歩に信せ裾を霑す田野の路

炊烟一縷受風斜

すいえんいちる かぜ う なな
炊烟一縷 風を受けて斜めなり

入選

神奈川県 大谷明史

老耄無為

ろうもう な な
老耄為す無し

林下茅廬靜四圍

りんか ぼうろ しいしず
林下の茅廬 四圍静かなり

案頭一朵白薔薇

あんとういちだ しやうびしろ
案頭一朵 薔薇白し

只思異國砲聲響

た おも いこく ほうせいひび
只だ思ふ異國に砲聲響き

城市樓邊炸彈飛

じやうしろうへん さくだんと
城市樓辺 炸彈飛ぶを

入選

神奈川県 柴本信子

疫病蔓延下病床有感

えきびようまんえんかびようしやうかんあ
疫病蔓延下病床感有り

衰年病眼隱憂深

すいねん め や いんゆうふか
衰年 眼を病みて隱憂深し

高閣幽房夜氣侵

こうかく ゆうぼう やきおか
高閣の幽房 夜氣侵す

夢裡潛彈想夫戀

むりひそ だん そうふれん
夢裡潜かに彈ず 想夫恋

無人聽取切歸心

ひと ちやうしゆ な きしんせつ
人の聴取する無く 歸心切なり

入選

石川県 邱山 西田 進

燕居春

えんきよ はる
燕居の春

東嶺南峰犀水陽

とうれいなんぼう さいすい きた
東嶺南峰 犀水の陽

鄉村終日杏花香

きやうそん しゆうじつ きやうかかんば
鄉村の終日 杏花香し

鳶飛魚躍蒼穹下

とびと うおど そうきゆう もと
鳶飛び魚躍る蒼穹の下

無事安閑萬慮忘

ぶ じ あんかん ばんりよわす
無事安閑として 万慮忘る

入選

静岡県 柳村 青野溥芳

櫟

けやき

一路閑行日欲沈

いちろかんこう ひしず
一路閑行 日沈まんと欲す

摩天櫟樹聳祇林

てん ま きよじゆ ぎりん そび
天を摩す櫟樹 祇林に聳ゆ

空庭落葉無人掃

くうてい らくよう ひと は な
空庭の落葉 人の掃く無し

寂寞寒風暮色深

せきばく かんふう ぼしよくふか
寂寞たる寒風 暮色深し

入選

静岡県 柳村 青野溥芳

春雨閑居

しゆん うち かんきよ
春雨閑居

四望空濛煙雨時

しぼうくうもう えんう とき
四望空濛 煙雨の時

殘櫻幾片使人悲

ざんおういくへん ひと かな
殘桜幾片 人をして悲しましむ

鳩巢哺子西窗側

きゆうそうこ はぐく せいそう かたわら
鳩巢子を哺む 西窓の側

草屋閑居獨案詩

そうおくかんきよ ひと し あん
草屋閑居 独り詩を案ず

入選

愛知県 近藤昌彦

病中寒夜

びやうちゆうかんや
病中寒夜

隆冬山野沍寒生

りゆうとう さんしょ ごかん しょう
隆冬の山野 沍寒に生ず

奄奄殘燈知幾更

えんえん ざんとう し いくこう
奄奄たる殘燈 知んぬ幾更ぞ

二豎涖涖眠不得

にじゆしんしん ねむ え
二豎涖涖として眠り得ず

俄聞枕上雪來聲

にわか き ちんじよう ゆきき こえ
俄に聞く 枕上 雪來たるの聲

入選

大阪府 北澤一郎

秋雨客旅

しゆうきやくくりよ
秋雨客旅

千里雲低到暮天

せんりくもた ぼてんいた
千里雲低れて暮天到る

無人橋畔雨如煙

むじん きようはん あめけむり ぐと
無人の橋畔 雨煙の如し

寒衣孤客秋江上

かんいこきやく しゆうかう ほとり
寒衣孤客 秋江の上

燈影微茫夜泊船

とうえいびぼう やはく ふね
燈影微茫 夜泊の船

入選

大阪府 湖舟 本田裕志

早春早行

早春早行

臨發澄晴楊柳新

はつ のぞ ちようせい ようりゆうあら
発するに臨み澄晴楊柳新たなり

舊朋勸酒別離晨

きゆうほうさけ すす べつり あさ
旧朋酒を勧む別離の晨

庭梅爲贈香堂滿

ていばいため おく かおりどう み
庭梅為に贈り香堂に満つ

客子難忘故國春

かくしわす がた こくく はる
客子忘れ難き故国の春

入選

奈良県 森下泰行

中秋賞月

中秋に月を賞す

良宵三五正中秋

りようしようさんご まさ ちゆうしゅう
良宵三五正に中秋

月色玲瓏瀨氣流

げつしよくれいろう こうきなが
月色玲瓏瀨氣流る

仙樂姮娥風雅宴

せんがくこうが ふうが えん
仙樂姮娥風雅の宴

一觴一詠醉高樓

いつしやういちえい こうろう よ
一觴一詠高樓に酔う

入選

熊本県 兼松孝幸

蕨狩

蕨狩り

初夏高原萬象清

しよか こうげん ばんしようきよ
初夏の高原 万象清し

薰風蝶戲野禽鳴

くんふうちやうたわむ やきん な
薰風蝶戲れ野禽鳴く

游行半日夕陽淡

ゆうこうはんじつ せきようあわ
游行半日夕陽淡し

薇蕨充籠歸路輕

びけつかこ み きろかる
薇蕨籠に充ちて 歸路輕し

入選

熊本県 友彗 岩下逸子

秋夜吟

秋夜吟

庭院蕭条兎影清

ていいんしょうじよう とえいきよ
庭院蕭条として兎影清し

桂花香裏草虫鳴

けいかこうり そうちゅうな
桂花香裏草虫鳴く

銀河欲滴感無限

ぎんがした ほつ かんかぎ な
銀河滴たらんと欲して感限り無し

秋思何堪故里情

しゅうしなん た こり じよう
秋思何ぞ堪えん 故里の情

入選

江津湖畔

熊本県 松村千代栄

えづこはん
江津湖畔

暮寒江畔往来稀

ぼかん こうはん おうらいまれ
暮寒の江畔 往来稀に

白鷺翩翩夕照微

はくろ へんぺん せきしょうかすか
白鷺翩翩として夕照微なり

古径閑行楓落尽

こけいしず い かえでお つ
古径閑かに行けば楓落ち尽くし

玲瓏孤月且忘帰

れいろう こげつ しばら かえ わす
玲瓏たる孤月 且く帰るを忘る

高壽奨励賞

喜春

東京都 崎岳 加恵康夫（93歳）

はる ようこ
春を喜ぶ

櫻朶蓋池如縉雲

おうだいけ おお しんうん ごと
桜朶池を蓋い縉雲の如し

銀鱗跳躍作波紋

ぎんりんちょうやく はもん な
銀鱗跳躍して波紋を作す

南風撫頬歩遊處

なんふうほほ ぶ ほゆう ところ
南風頬を撫す歩遊する処

萬物欣春我亦欣

ばんぶつ はる ようこ われ またようこ
万物は春を欣び我も亦欣ぶ

高壽奨励賞

讀漱石

東京都 永野 澄（96歳）

そうせき よ
漱石を読む

高名萬里響如雷

こうめいばんり ひび らい ごと
高名万里 響き雷の如し

詩趣盈盈文藻才

ししゅえいえい ぶんそう さい
詩趣盈盈たり 文藻の才

三四郎譚獨耽讀

さんしろうたん ひと たんどく
三四郎譚 独り耽読すれば

青春懷古氣雄哉

せいしゅんかいこ きゆう かな
青春懷古して氣雄なる哉

高壽奨励賞

綠陰讀書

新潟県 荻城 渡辺 敦（82歳）

りよくいんどくしよ
綠陰讀書

二十年前惜退休

にじゅうねんまえ たいきゅう お
二十年前 退休を惜しむ

却怡今日事風流

かえ たの こんにち ふうりゅう こと
却つて怡しむ今日 風流を事とするを

綠陰深處舒詩卷

りよくいんふか ところ しかん の
綠陰深き処 詩卷を舒べ

獨聳吟肩頻點頭

ひと ぎんけん そび しき てんどう
独り吟肩を聳やかして頻りに點頭す

高壽奨励賞

徳島県 松花 上田美穂子（83歳）

寒夜即事

かんや そくじ
寒夜の即事

窗外尖風夜雪天

そうがいせんぷう やせつ てん
窓外尖風 夜雪の天

冱寒人定不如眠

ごかん じんてい ねむ
冱寒の人定 眠るに如かず

枕中有否高吟句

ちんちゆうあ いな こうぎん
枕中有りや否や 高吟の句

夢裏推敲詩一篇

むり すいこう しいつぺん
夢裏の推敲 詩一篇

高壽奨励賞

熊本県 有栄 増永 榮（87歳）

看櫻

かんおう
看桜

櫻花繚乱艷陽春

おうかりようらん えんよう はる
桜花繚乱たり艷陽の春

故址園頭紅雨頻

こしえんどう こう う しきり
故址園頭 紅雨頻なり

清景如夢斜日白

せいけいゆめ ごと しゃじつしろ
清景夢の如く斜日白し

雅人環坐醉芳醇

がじんかんざ ほうじゆん よ
雅人環坐して芳醇に酔う